関西自然保護機構会誌投稿規定

1　**刊行の趣旨**　関西自然保護機構は機関誌として関西自然保護機構会誌（以下会誌という）を年2回刊行し，自然保護に関する会員相互の知識と経験の交流をはかる。

2　**報文の類別**　自然保護に資する原著，総説，短報，資料（絶滅危惧種など），抄録，意見，随想，書評，活動記（以下報文という）及び会記を会誌に掲載する。

3　**投稿資格**　投稿者の少なくとも一人は会員でなければならない。ただし編集委員の依頼原稿はこの限りではない。

4　**原稿の受付**　別に定める執筆要領に従って書かれた報文原稿を受け付ける。

5　**審　　査**　受け付けられた原著，総説，短報の原稿は編集委員を含む複数の査読者によって審査される。原稿の内容について編集責任者は著者に修正を求めることができる。編集責任者が掲載不適当と判断した報文原稿については判断の理由を明記して著者に返送する。原著，総説，短報以外の報文でも，編集責任者が必要と認めた場合には審査に付すことがある。

6　**受　　理**　審査に付された報文は編集委員が報文の掲載を可とし，編集責任者がそれを認めた日付をもって報文の受理日とする。審査に付されなかった報文は報文受付日を受理日とする。

7　**校　　正**　著者校正は原則として初校に限って行い，誤植の訂正にとどめる。

8　**原稿の部数**　投稿原稿は本文，図表とも3部作成して編集事務局に送付する。そのうち2部はコピーでも良い。本文のフロッピーディスク（MS-DOS テキストファイル）も添付する。

9　**原稿の送付**　原稿の送付，その他，会誌に関する問い合わせは別に定める編集事務局とする。

10　**印刷費等の著者負担**　論文印刷は16頁までを無料とし，超過分は原則として著者負担とする。図及び写真のカラー印刷は，原則として著者負担とする。別刷りは50部までを無料とし，それを超えた分は著者負担とする。英文校閲にかかる費用は著者負担とする。

11　**規定の改訂**　この規定は会誌22巻1号に掲載される論文から適用する。この規定は会誌の各巻の1号に掲載する。この規定の改訂は編集委員会の議を経て，理事会の承認を得て行うものとする。

関西自然保護機構会誌執筆要領

1　報文原稿は和文または英文とする。

2　和文原稿は1）和文標題，2）和文著者名，3）和文所属（無くても良い），4）英文標題，5）英文著者名，6）英文所属（無くても良い），7）英文要旨（原著でかつ著者が希望する場合に限る），8）本文，9）引用文献（意見，随想，活動記などでは無くても良い）の順に記述する。謝辞は原則として本文中の序文にあたる項目の最後に記す。詳細は会誌の最近号を参照する。

3　英文原稿は1）英文標題，2）英文著者名，3）英文所属（無くても良い），4）和文標題，5）和文著者名，6）和文所属（無くても良い），7）英文要旨，8）英文本文，9）英文引用文献，10）和文要約（1200字以上1400字以下。執筆者が外国人の場合は無くても良い）の順に記述する。謝辞は原則として本文中の序文にあたる項目の最後に記す。詳細は会報21巻2号等に掲載の英文論文を参照する。

4　和文原稿は400字詰原稿用紙に横書きする。ワードプロセッサーを用いる時は，A4版用紙に30文字×30行を12ポイントの活字を用いてタイプし1頁とする。原稿の長さは原則として10,000字（400字詰原稿用紙25枚）以内とするが，編集委員が認めた原稿はこの限りではない。

5　英文原稿はＡ４版用紙に10ポイントの活字を用いてダブルスペースでタイプし，上下各３㎝，左右各2.5㎝程度をあけ，約65文字25行を１頁とする。原稿の長さは原則としてタイプ用紙25枚以内とするが，編集委員が認めた原稿はこの限りではない。

6　用語の表記については文部省学術用語集等に準ずる。和文原稿で動物・植物の和名はカタカナ，学名はイタリック体（下線指定）で表記する。和文原稿で岩石・鉱物名は漢字を用いて良い。

7　度量衡の単位はメートル法表記を原則とする。

8　本文中での文献引用は次の例に従う。１）著者が３名以上のものについては「・・・ほか」，または「・・・et al.」とする。２）最近，松田・品田（1985）はカワセミ体脂肪中の重金属蓄積・・・特に銅において著しかった（小林，1984；渡辺，1985；布谷，1985，1986a，1986b）。

9　引用文献は原則として本文中に引用されたものに限り，かつ引用されたものすべてを記す。文献の配列の順序は原則として著者名のアルファベット順とする。また著者が同一なものについては発表の年代順とし，同一著者の同一年のものについては年号のあとにアルファベットを付して1986a，1986b のように区別する。各文献は下記の例にならって記載する。著者不明の場合は，Anon. として表記する。会誌の表紙の言葉のように，印刷物の無頁の箇所に書かれた文献を引用する場合は，頁無記載と記す。

Anon. 1985. 自然保護.「岩波生物学辞典第３版」(山田常雄・前川文夫・江上不二夫・八杉竜一・小関治男・古谷雅樹・日高敏隆編)，522. 岩波書店，東京.

Anon. 1998. ヤマモモ.「ならの樹木」(菅沼孝之編)，45. 奈良市，奈良.

有田八郎. 1981. 野鳥とスズメの固体数比率による自然度の判定. 関西自然保護機構会報，６：１－６.

川内博. 1985. 東京におけるコゲラ・アオゲラの平地部進出について. 日本大学豊山中・高等学校研究紀要，16：21－21.

――・金子凱彦. 1984. 帰ってきたカワセミ. どうぶつと動物園，36：48－51.

Hubbell, S. P. & Foster, R. B. 1983. Diversity of canopy trees in a neotropical forest and implications for conservation. In : Tropical Rain Forest : Ecology and Management. Special Publication Number 2 of the British Ecological Society (eds. Sutton, S. L., Whitmore, T. C. & Chadwick, A.C.), 25-41. Blackwell, Oxford.

Ishizuka, K. 1974. Mountain vegetation. In : The Flora and Vegetation of Japan (ed. Numata, M.), 173-210. Kodansha, Tokyo ; Elsevier, Amsterdam.

北村四郎・村田源. 1979. スダジイ.「原色日本植物図鑑木本編Ⅱ」(北村四郎・村田源著)，278－279. 保育社，大阪.（注１　図鑑の中のズダジイの項目のみの引用例).

――・――. 1979. 原色日本植物図鑑木本編Ⅱ. 545pp. 保育社，大阪.（注２　図鑑全体の引用例).

小林圭介. 1998. 表紙の言葉「平池のカキツバタ群落」. 関西自然保護機構会報，20（１)：頁無記載.

Lack, D. 1968. Ecological Adaptation for Breeding in Bird. 12+409pp. Methuen, London.

May, R. M. (ed.). 1976. Theoretical Ecology. 8+317pp. Blackwell, Oxford.

マックスウェル，K. E. 1974（小泉明ほか監訳，1974). 生命の環境・下. 604pp. 講談社，東京.

前田保夫. 1980. 臨海平野の表層部に残る縄紋海進の記録. 月間地球，２(１)：１－６.

三浦慎悟. 1980. 奈良公園における日本ジカの社会構造. オスの社会組織.「昭和54年天然記念物「奈良のシカ」調査報告」((財）春日顕彰会編)，１－11.（財）春日顕彰会，奈良.

中村登流. 1973. 鳥獣の世界から.「自然保護を考える」(信州大学教養部自然保護講座編)，95－

113. 共立出版, 東京.
日本環境協会. 1998. 環境教育研修等事例集. 5＋459＋85pp. 日本環境協会, 東京.
三枝豊平・小野勇一・矢田修・井上晉・馬場稔・武石全慈・仲谷淳・真鍋徹. 1998. 里山の生態系の更新・維持機構および保護管理に関する研究. 日産科学振興財団研究報告書, 21 (1998)：1－4. 日産科学振興財団, 東京.
菅沼孝之. 1998.「ならの樹木」と奈良文化.「ならの樹木」(菅沼孝之編), 頁無記載. 奈良市, 奈良.
――(編). 1998. ならの樹木. 3＋56＋3 pp. 奈良市, 奈良.
Werner, D. & Muller, P.(eds.). 1990. Fast Growing Trees and Nitrogen Fixing Trees. 396pp. Gustav Fisher, Stuttgart.
山岸哲. 1975. アンケート法による長野市における15年間のツバメの個体数変動. 野鳥, 40：74－83.
――. (Yamagishi, S.)1981. Effect of parent age class on breeding success of the meadow bunting *Emberiza cioides*. (Aves, Emberizidae). Jap. J. Ecol., 31:117-119.

10 表は1つずつ別紙に書き，1表の大きさは原則として1ページに印刷できる限度以下とする。表の説明は，その上部にまず「表1」と書き，ついで表題をあげたのち，本文をよまなくても理解出来る程度に説明を加える。なお本文中にその表を置きたいおよその位置の原稿右欄外に「表1」のように朱書きする。

11 図（写真を含む）はできるだけ少数にとどめ1つずつ別紙に書く。図はそのまま製版できる状態でなければならない。図は印刷されるときの大きさの1.5倍ないし2倍大（長さで）に書く。薄手の用紙に書いた場合は白色の厚手台紙に貼る。また上端欄外に図の番号と著者名を朱書きする。図の説明は別紙にまとめて書き，その紙に本文に続く通しのページ数を打つ。各図の説明は，その下部にまず「図1」のように書き，ついで表題をあげたのちに，本文を読まなくても理解できる程度に説明を加える。なお本文中にその図を置きたいおよその位置の原稿右欄外に「図1」のように朱書きする。

12 原図の送付は，査読終了後の最終原稿送付時とする。

13 無料分の別刷り50部を除く，有料分の必要別刷り数を50部単位で最終原稿の右上に朱書きする。

14 著者校正で本文や図表を変更することは原則として認めない。

15 この要領は会誌の各巻の1号に掲載し，会誌22巻1号に掲載される論文から適用する。要領の改訂は，編集委員会の議を経て行う。

会誌編集事務局
〒574-8530
大阪府大東市中垣内3－1－1
大阪産業大学大学院人間環境学研究科（前迫研究室）気付
電 話　072－875－3001
FAX　072－871－1259